

平成31年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

重点課題	重点目標	担当	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点
基礎学力の向上と主体的・対話的で深い学びの実現	○基礎学力の定着と向上を図る。 ○面談の充実により、一人ひとりの課題に応じた指導を徹底する。 ○生徒の探究心を育成し、主体的に学ぶ態度を養う。 ○探究的活動を通して社会や自然科学への知識・関心を深め、思考力・判断力・表現力を育成する。	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の教科会を設定し、生徒の実態に応じた学力向上策を検討し、効果的な取組を行う。また、松高セミナー、補習、課題テスト、週末課題、模擬試験等も活用する。 個々に応じた教科指導を行うとともに、面談を充実させ、将来に向けた目標の早期設定を支援し、きめ細かな進路指導を推進する。 ICTを活用した授業等を積極的に実践したりアクティブラーニングを推進するなど、「基礎的な知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」の育成を図る。 「未来のためのまなびプロジェクト」を中心に、新入試制度、新学習指導要領に対応した授業改善の方策及び「総合的な探究／学習の時間」を軸とする横断的・総合的な学習のあり方を検討・実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学、短大、専門学校進学や公務員試験・企業就職等の多様な進路希望に対応する補習や個別指導を行う。1・2年生全員対象の松高セミナー(8:00~8:25)で週2回のSSRの時間を設け、読む力を定着させ、基礎学力の向上を図る。2年生(3学期のみ)・3年生の希望者対象の進路に応じた早朝補習(7:50~8:25)を実施する。 平常の学習活動で「振り返りシート」を用いて、生徒による授業の自己評価を行う。 年間4回の面談月間を基本に生徒やクラスの状態に応じた面談を実施し、生活・学習習慣の維持向上を図るとともに、進路意識を高め目標を明確化する。 授業研究週間を年間3回設け、その中で、アクティブラーニングを主体とした授業、ICTを活用した授業、「生徒授業」等に取り組み、生徒による授業評価を2回実施する。 1年の「総合的な探究の時間」で、自らの興味・関心をもとにした探究活動を展開し、主体的に学ぶ態度を養う。 2、3年の「総合的な学習の時間」を進路指導との系統性を持たせ、計画的に実施し、進路指導を充実させる。 		
		1学年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間の確保。家庭学習2時間以上の生徒を25%以上、1時間未満の生徒を30%以下とする。(4月と9月のスタディーサポートで評価) 松高セミナー出席率を90%以上とする。特に月曜日と金曜日のSSRの時間を利用し、読書する習慣を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生活の記録」を記録させ、自己反省・自己管理をさせる。 個人面談や生活実態調査・進路希望調査等から生徒の実態を分析し、目的意識を持って学習に取り組ませるよう、細やかな指導を行う。 予習、復習を励行し、週末の家庭学習時間を確保させる。また、SSRの日を充実させ、本を読む力を育成させる。 		
		2学年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間の確保。家庭学習2時間以上の生徒を25%以上、1時間未満の生徒を30%以下とする。(4月と9月のスタディーサポートで評価) 松高セミナー出席率を90%以上とする。特に月曜日と金曜日のSSRの時間において主体的に読書に親しむ生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生活の記録」を記録させ、自己反省・自己管理をさせる中で、家庭学習時間を伸ばしていく。また、面談や進路希望調査、「生活の記録」等から生徒の実態を分析し、学習方法など個々に応じた具体的な指導を行う。 本に対する興味関心を喚起するために、図書室利用の機会を増やし、また学級文庫の充実等についても検討していく。 		
		3学年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間の確保。家庭学習時間2時間以上の生徒25%以上、1時間未満の生徒を30%以下とする。(4月のスタディーサポートや「生活の記録」で評価) 「生活の記録」を記録させ、自己管理・自己反省の機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生活の記録」を毎日記録させ、自己反省・自己管理をさせる中で、家庭学習時間を伸ばしていく。また、面談や進路希望調査、「生活の記録」等から生徒の実態を分析し、個々の進路実現のため、具体的な目的意識を持って学習に取り組ませるよう、細やかな指導を行う。学習方法などについても具体的な指導を行う。 		
生徒の可能性を最大限に伸ばす進路指導の推進	○多様な進路と高大接続改革など、時代の変化に応じたきめ細かな進路指導を推進する。 ○キャリア教育と探究的活動を推進し、個に応じた進路目標設定を支援する。	国語	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートの「内容理解」「興味・関心」「積極的参加」項目について、できている割合を80%以上とする。 スタディーサポートの学習到達度B層人数の維持または増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業、単元における目標の明示。 校内課題テスト(スタディーサポート)や模試の結果の分析。特に、分野別の観点を用いて、セミナーや補習、日々の課題において、時期や分量を考慮しながらある程度まとめて指導する。 		
		地歴・公民	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会に主体的に生き、社会を形成する公民としての必要な資質を身につける。 授業評価アンケートの「内容理解」「興味・関心」項目について、できている割合を80%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びを促す課題を提示し、グループディスカッション等の言語活動を通して相互の理解を深める。 プリントなどを用いて理解度を確かめる(使用プリント・小テスト等は誤答を直させ、正しい知識の定着を図り、評価の一部とする)。 週1回は新聞記事を題材にした授業を展開する。(公民) 現代社会の出来事について、自らの意見を持ち、またそれを発表する機会を毎週1回は設ける。(公民) 		
		数学	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートの「内容理解」項目について、できている割合を75%以上とする。 スタディーサポートの学習到達度B層以上を増やす。 「数学検定」の合格者数を10人以上にする。(H30年度7人) 	<ul style="list-style-type: none"> 週末課題、宿題の提出を徹底させる。 復習を兼ねての宿題を毎時間出す。予習の仕方や必要性を、機会をとらえ指導する。 定期考査、課題テストや校外模試を十分に活用する。松高セミナーにスタディーサポートを取り入れ、最後に確認テストを行う。 数学講座を定期的に行う。年間計画を立て、生徒が計画的に講座に参加できるようにする。 		

評価(達成度) A:十分達成 (100%) B:概ね達成 (80%程度) C:変化の兆し (50%程度) D:まだ不十分 (30%前後) E:目標、方策の見直し (20%以下)

平成31年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

重点課題	重点目標	担当	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点
基礎学力の向上と主体的・対話的で深い学びの実現 生徒の可能性を最大限に伸ばす進路指導の推進	○基礎学力の定着と向上を図る。 ○面談の充実により、一人ひとりの課題に応じた指導を徹底する。 ○生徒の探究心を育成し、主体的に学ぶ態度を養う。 ○探究的活動を通して社会や自然科学への知識・関心を深め、思考力・判断力・表現力を育成する。 ○多様な進路と高大接続改革など、時代の変化に応じたきめ細かな進路指導を推進する。 ○キャリア教育と探究的活動を推進し、個に応じた進路目標設定を支援する。	理科	・授業評価アンケートの「内容理解」「興味・関心」「積極的参加」項目について、できている割合をそれぞれ75%, 80%, 80%とする。 ・薬品等を使う生徒実験においてT-T達成率を80%以上とし安全な実験実習を心がけ事故ゼロを目指す。	・教科内公開授業を行い、指導力の向上を図る。小テストを実施することで学力の定着を図る。 ・実験実習の回数を各科目で学期に1回以上とする。 ・生徒に安全面に対する認識を深めさせ、生徒実験時のT-T体制を確立し、学習内容の理解度を高める。 ・ICTを積極的に活用する。 ・グループワークを充実させ、興味関心をもたせる。		
		保健・体育	・積極的にスポーツに取り組む姿勢を育成することを目標とする。 ・授業評価アンケートの「積極的参加」項目について、できている割合を85%以上とする。	・技術向上のポイントや、ゲームの進め方等を細かく指導するとともに、審判法や競技の特性など、各種目への興味を高める指導を行う。		
		芸術	・授業評価アンケートの「内容理解」「興味・関心」項目について、できている割合を90%以上とする。	・授業に興味・関心を持たせる教材の精選と、理解度を高めるためにコンテンツ等を用いたり、模範を示して指導方法に工夫を凝らす。		
		英語	・授業評価アンケートの「内容理解」「興味・関心」項目について、できている割合を80%以上とする。 ・スタディーサポートの学習到達度B層以上を増やす。 ・実用英語技能検定の合格率を50%以上にする。	・基礎・基本の定着が必要な生徒と、成績上位層の生徒それぞれに対し、授業・松高セミナー・各種テストを通じてその内容や取組を工夫する。学習方法を具体的に指示しながら、予習・復習を奨励し、家庭学習の習慣を身につけさせる。生徒が能動的に学習に取り組めるようにするため、アクティブラーニングの授業となるよう工夫する。 ・授業中の学習や活動の結果、実用英語技能検定に合格できる力を養成できるよう授業を改善するとともに、英検などの外部試験対策講座を設定する。		
		家庭	・授業評価アンケートの「興味・関心」項目について、できている割合を90%以上とする。 ・家庭科技術検定100%、保育技術検定90%以上の合格を目指す。 ・消費者教育で生徒理解度を90%以上にする。	・実生活に役立つ基礎的な内容を精選し、体験的に学ぶ授業を積極的に取り入れる。 ・検定の意義を理解させ、合格を目指して放課後に練習をさせる。 ・「社会への扉」の教材を利用して生徒の理解を高める。		
		情報	・授業評価アンケートの「内容理解」項目について、できている割合を80%以上とする。 ・ビジネス文書実務検定は100人以上の受検者数をめざす。 ・10分タイピングで300字以上タイピング率を70%以上にする。	・1年生には毎週10分タイピングを継続して実施し、ビジネス文書検定を受検することを意識した取組にする。 ・2, 3年生の情報選択者にはさらにビジネス文書検定のさらに高い上の級に挑戦させる。		
		教務	・成績優良者を増やす。(在籍生徒の5%以上) ・欠点保有者数を減らす。(在籍生徒の7%未満 [1学期末], 6%未満 [2学期末], 2%未満 [学年末])	・教育課程に多様な選択科目を設けるとともに、希望制による習熟度の高い応用クラスを各学年に1クラス設置し、国語、数学、英語の科目で少人数制による授業を実施する。 ・全校集会や学年集会において生徒に高い目標を持たせるとともに、各教科や担任による個別指導を行い、自分の将来をイメージさせ、学習習慣を確立させる。 ・個人面談等を通して生徒理解に努め適切なアドバイスを行う。 ・授業研究週間等を有効活用し授業力の向上を図り、生徒の学力向上に繋げる。		
図書・視聴覚	・読書習慣を身に付けさせて、読解力と思考力を養い、広い視野を持たせるために、図書館の図書貸出冊数を1人平均4冊以上とする。 ・年間を通してたくさん本を読んだ生徒を各学年3名表彰する。	・図書館便りや昼休みの放送を通して広報を行い、入館者を増やす。 ・国語の教科書に掲載されている作家コーナーや毎月テーマを決めた図書の展示コーナーを設置したり、生徒による図書の紹介や、「先生方からの推薦図書」を発行したりすることで、読書に対する関心を高める。 ・HRの時間に読書の時間を年間を通して1時間設定する。 ・授業で図書館を利用する回数を増やしていく。				

評価（達成度） A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（50%程度） D：まだ不十分（30%前後） E：目標、方策の見直し（20%以下）

平成31年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

(3)

重点課題	重点目標	担当	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点
心に響く生徒教育といじめをゆるさない人権教育の推進	○松高生としての自覚と誇りを醸成する。 ○基本的生活習慣の確立、時間厳守、美しい制服の着こなし、挨拶の励行を推進する。 ○互いを認め、思いやり、ともに高め合う心を育成する。 ○ルールを守る規範意識の育成を図る。	1学年 2学年 3学年	・担任会等において生徒の出欠状況など気にかかる生徒を把握し、管理職に報告相談し、共通理解に努める。 ・学年間の共通理解を図るために、随時、学年主任で協議する。	・気にかかる生徒については、随時個別面談を行うとともに、保護者との連携を密にする。特に不登校気味の生徒に対しては、家庭訪問や三者面談等を通して、意識が学校に向くような支援を行う。 ・学年主任の連携を密にし、担任会での議題等について必要に応じて協議をし、3学年一体となった指導を行う。		
		人権教育	・人権学習ホームルーム活動を充実させ、人権意識の高揚を図り、同和問題をはじめさまざまな人権問題解決のための意欲と実践力をもった生徒を育てる。 ・講演会等の満足度を80%以上とする。 ・人権学習ホームルーム活動後の自己評価において、「真剣に取り組めた」生徒の割合を80%以上とする。	・校内外の研修を充実させ、それを生かして生徒への授業や人権学習ホームルーム活動を充実し、生徒が主体的に取り組み、活動できるように内容を精査する。特に校外との交流を通して、校内人権教育のリーダーとして活動できる生徒を育てる。 ・定期的に職員研修や人権問題講演会を実施し、『あわ人権学習ハンドブック』や『じんけん』を人権学習ホームルーム活動において有効に活用する。		
		生徒教育	・問題行動が起こらないような環境づくりに努め、基本的生活習慣を確立させる。(一年間皆勤の者が全校生徒数の30%以上となるようにする) ・遅刻を減らす指導を徹底する。(遅刻延べ数を1000回未満に減少させる)	・毎週水曜日を「自主・自律の日」とし、朝のSHRで生活記録を活用し、日頃の生活の見直し、改善をはかる。また、日常的に声かけを行い、信頼関係の中で指導を行う。生活委員長による放送での呼びかけを行う。 ・遅刻者については基本的生活習慣を確立させるため、内省する機会を与える。		
			・特別支援を必要とする生徒に対する組織的な支援体制の確立を図る。 ・特別支援の職員研修を年1回以上行う。	・全教職員の共通理解の下、支援の必要な生徒に対して支援委員会やサポート会議を開き、具体的な支援を検討し、実践する。		
			・教育相談週間を年4回以上実施し、生徒理解に努め、生徒の自己実現を支援する。	・教育相談週間等を利用して生徒と教職員の人間的なふれあいの中で生徒の自立を支援する。		
			・暴力やいじめを許さない環境作りをするため、学校生活アンケートを年3回行う。	・各学期に実施し、生徒の生活実態を把握し、全校集会・学年集会や部活動キャプテン会議等の機会を捉え注意を喚起する。また、いじめ防止につながる啓発活動をする。		
		保健・厚生	・ホームページに保健情報を各学期に1回以上掲載する。 ・保健に関するHR活動を年1回実施する。 ・教職員を対象として心肺蘇生法と緊急時の救急法の研修を実施する。	・生徒の実態や季節に応じた保健情報を発信したり、文化祭での保健展を実施することで、各家庭や地域の健康に関する意識の向上につなげる。 ・検査や検診の結果を家庭に通知した後、個別指導を粘り強く行い、心身の健康の保持や増進を図る。 ・教職員がAED・エビペンを使った対応の仕方を学ぶとともに、緊急時に対応するスキルや能力を身につける。		
		環境・防災	・ゴミの減量とリサイクル活動を徹底させる。 ・丁寧に清掃を行い、学校生活環境を整えさせる。 ・環境委員会活動を年間5回以上実施する。	・環境ISO取得を受け、缶・ペットボトル分別回収・古紙回収を全委員会・全職員で行い、自己処理から徹底させる。 ・クラスの環境目標を決めて教室掲示する。丁寧に清掃を行い、校内美化に努める。		

評価（達成度） A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（50%程度） D：まだ不十分（30%前後） E：目標、方策の見直し（20%以下）

平成31年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

(4)

重点課題	重点目標	担当	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点
部活動における技術・競技力・人間力の向上と生徒会活動の活性化	○一人ひとりが目標を持ち、部活動を通じて互いを高め合うとともに、豊かな心や創造性の涵養、生涯を通じた健康・安全な生活と豊かなスポーツライフの実現につながる基礎を培う。 ○自分たちの生徒会に誇りが持てる、生徒による、生徒のための生徒会活動の実現を目指す。	特別活動	・部活動加入率80%以上を目指す。	・各部活動が魅力ある活動を展開するとともに、活動状況を紹介する機会を多く設定し、部活動への興味を高め、部員の勧誘に努める。		
			・キャプテン・部長会議、部活集会を年間に4回以上行う。	・各部の部長、キャプテンに活動の注意事項を伝えると同時に、生徒間同士での話し合いの時間を持ち、部活動の活性化に努める。		
			・生徒会が中心となって、松高祭「文化祭」の内容を充実させ、来場者500人以上を目指す。	・専門委員会や部活動による発表や展示を充実させる。ホームページなどを活用し、卒業生、保護者、中学校、地域へのアピール方法を工夫する。		
学校・家庭・地域連携協働体制の構築と地域貢献ボランティア活動の推進	○学校・家庭・地域が一体となって、地域の未来を担う生徒を育成する。 ○地域社会との交流による地域貢献型学習を推進する。 ○あらゆる機会を通じて、積極的な情報発信を行う。 ○地域と連携した防災教育の推進を図る。	特別活動	・小松島松原の育樹ボランティア活動を年6回以上実施し、全校生徒の60%以上の参加を目指す。 ・ボランティア活動に対する意識を高め、校外のボランティアにも積極的に参加し、ボランティア認証を受ける生徒100名以上を目指す。	・ボランティア推進委員が中心となって全校生徒に呼びかけ、ボランティアを募る。ボランティア活動に対する意識を高め清掃活動等にも積極的に取り組む。 ・ボランティア活動の意義や認証登録制度について説明する機会を持つ。実施日等について全校生徒に案内するとともに、ボランティア推進委員を中心に参加者を増やしていく。		
		主権者教育	・主権者教育に関するホームルーム活動、プロジェクトK、生徒会活動、学校行事を年間10回以上実施する。 ・校外でのボランティア活動や、主権者教育に関する行事等に参加する生徒の割合を60%にする。 ・主権者教育に関する活動を通して、投票を含む社会参加についての意識が高まった生徒を60%以上にする。 ・保護者用の主権者教育通信「Vote a Voice」を年5回以上発行し、周知を図る。	・使用可能な資料、専門書等の紹介を行う。 ・生徒会役員選挙をはじめとした「選挙」に関わる取り組みと公民科の学習内容との関わりを強化し、さまざまな立場の考え方に触れる時間をもつ。		
		環境・防災	・防災避難訓練を年2回実施し、様々な状況において対応できるよう内容を工夫する。 ・学校内外の清掃活動に積極的に参加させる。	・1回目は火災を想定し、避難経路の確認をする。2回目は地震津波対応の避難訓練を実施する。また、教職員の対応も含めて訓練する。 ・ゴミゼロ運動や除草作業等を積極的に行う。		
		渉外	・PTA総会実施日に授業参観や進路説明会、学級懇談や個人懇談を計画し、より多くの保護者に本校の教育方針や教育活動を理解して頂く。 ・役員会を年5回以上行い、情報を積極的に提供する。	・保護者の協力を求め、学校と家庭との連携を密にし情報交換を実施する。 ・ホームページの更新回数を増やし、地域への学校行事案内やボランティア活動を行う。		
			・PTA総会の参加人数を150名以上とする。	・PTA総会実施日に、授業参観や進路説明会、学級懇談や個人懇談を計画し、より多くの保護者に本校の教育方針や教育活動を理解していただくとともに情報も積極的に提供する。		
		1学年	・保護者対象進路説明会の参加目標数を90名以上とする。	・保護者対象進路説明会では、生徒の状況報告や、進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。また、必要に応じて個人懇談を実施する。		
		2学年	・保護者対象進路説明会の参加目標数を80名以上とする。	・保護者対象進路説明会では、生徒の状況報告や、進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。また、必要に応じて個人懇談を実施する。		

平成31年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

(5)

重点課題	重点目標	担当	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点
学校・家庭・地域連携協働体制の構築と地域貢献ボランティア活動	○学校・家庭・地域が一体となって、地域の未来を担う生徒を育成する。 ○地域社会との交流による地域貢献型学習を推進する。 ○あらゆる機会を通じて、積極的な情報発信を行う。 ○地域と連携した防災教育の推進を図る。	3学年	・保護者対象進路説明会の参加目標数を90名以上とする。	・保護者対象進路説明会では、生徒の状況報告や、進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。また、必要に応じて個人懇談を実施する。		
		情報教育	・ホームページ更新回数を100回程度以上とする。	・多くの教員が更新に関われるように研修会を実施し、更新する内容を増やす。		
		管理職	・学校評議員・学校関係者評価委員会を2回実施する。	・近隣の中学校の教員を委員とする学校関係者評価を行うことで、より客観性のある学校評価を行うとともに、地域の学校関係者との交流、中学校に対する学校情報の公開を行い、説明責任を果たす。		
		教務	・中学3年生を対象とした体験入学を実施し、参加生徒数の目標を320名以上とする。 ・参加生徒の「少し理解できた」以上という評価が95%以上、「理解できた」という評価が70%以上となるよう内容を工夫する。 ・11月の公開授業（オープンスクール）も広報に努める。	・中学校への説明・広報活動を積極的に推進する。小松島市及び近郊の中学校と在校生の出身中学校へは年2回以上訪問し、学校案内・資料の配付も併せて行う。 ・中学生体験入学、オープンスクールともに近隣中学生が参加しやすい日程を調整する。		
			・保護者への情報提供を積極的に行い、連携を密にして生徒の指導にあたる。 ・「松高だより」を年6回以上発行する。	・「松高だより」の内容を精選し、写真、図・表を取り入れるなど見やすく読みやすいものとし、ホームページにも公開をする。		
	○強い責任感を持って、充実した教育を展開するために、常に教職員の資質向上と、教職員組織の強化を図る。	管理職	・コンプライアンス研修を年20回以上行うとともに、管理職と教職員との個別面談を年2回以上行い、不祥事の防止と風通しの良い職場環境づくりを行う。	・「コンプライアンスハンドブック」、新聞記事等を活用して違反事例や処罰を学ぶとともに、目標管理シートを基に個別面談を行う。		
			・生徒が安全で安心して学校生活を送れるよう、年間5回以上の学校安全研修を行う。	・避難訓練、心肺蘇生法、アナフィラキシーショック対処法等、計画的・組織的に行う。		
			・教職員の交通安全意識を高め、交通違反や事故を「ゼロ」にする。	・県安全運転管理者協会が主催する安全運転管理者講習会に出席し、モータリゼーション社会の現状を学び、交通マナー・ルール遵守の精神を培う。		
			・地域や家庭に信頼され開かれた学校づくりを行うため、情報発信と交流を年間100回以上行う。	・ホームページやマスコミを活用し、常に本校の教育活動や取組を発信するとともに、職場実習等を通じ地域との交流を図る。		
			・教職員の働き方改革を推進するため、会議は60分以内、部活動は20時制限を設ける。	・予め会議資料を配付し、教職員が議題を把握することで会議の効率化を図り、また部活動では、予め練習メニューを作成することで効率的な練習を行う。		

評価（達成度） A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（50%程度） D：まだ不十分（30%前後） E：目標、方策の見直し（20%以下）